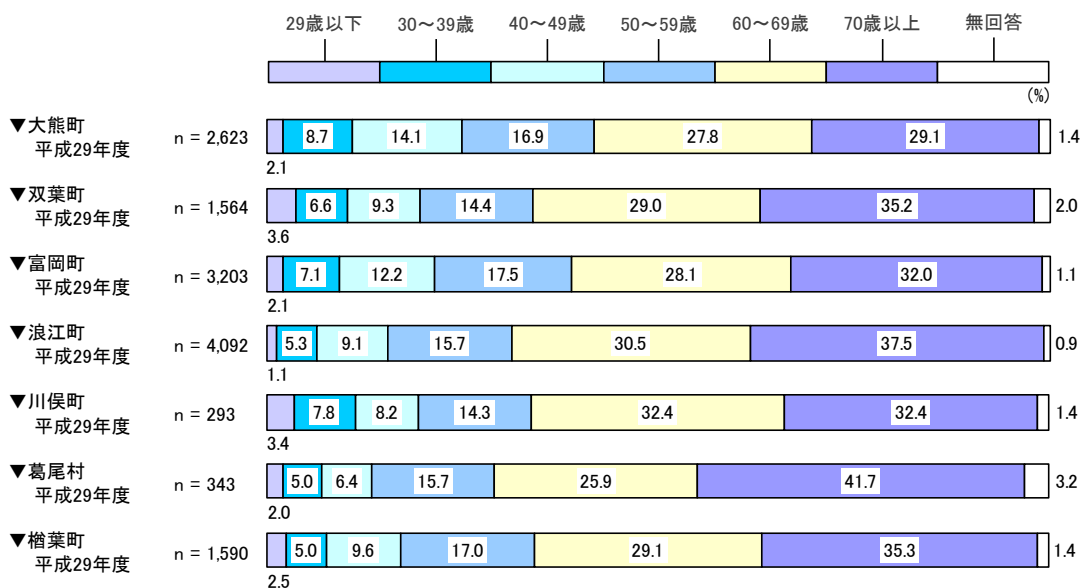


平成 29 年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果（概要）

調査の概要

1. 調査目的：福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備、長期避難者の生活拠点の具体化等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
2. 調査主体：復興庁、福島県、各町村が共同で実施
3. 実施町村：大熊町、双葉町、富岡町、浪江町、川俣町、葛尾村、楡葉町の 7 町村
4. 実施時期：平成 29 年 8 月 28 日～平成 30 年 1 月 18 日
5. 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）調査対象は各世帯の代表者
6. 主な調査項目：現在の居住状況、帰還に関する意向、帰還の判断に必要な情報など
7. 回答者の属性（年齢）



調査設計

●調査対象となった各町村の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町村	対象地域	記名・ 無記名	対象 世帯数	回答 世帯数	有効 回収率	調査実施期間
1	大熊町	全域	記名	5,218	2,623	50.3%	平成30年 1月 4日～ 1月18日
2	双葉町	全域	記名	3,133	1,564	49.9%	平成29年10月30日～11月15日
3	富岡町	全域	無記名	6,943	3,203	46.1%	平成29年 8月28日～ 9月11日
4	浪江町	全域	記名	8,637	4,092	47.4%	平成29年12月11日～12月25日
5	川俣町	山木屋地区	記名	520	293	56.3%	平成30年 1月 4日～ 1月18日
6	葛尾村	野行地区以外	無記名	557	343	61.6%	平成29年10月 2日～10月16日
7	楡葉町	全域	記名	3,378	1,590	47.1%	平成29年10月 2日～10月16日
				28,386	13,708	48.3%	

●調査対象の考え方 : 上記「対象地域」の全世帯の代表者
(分散避難している場合はそれぞれの代表者)

●調査結果の見方

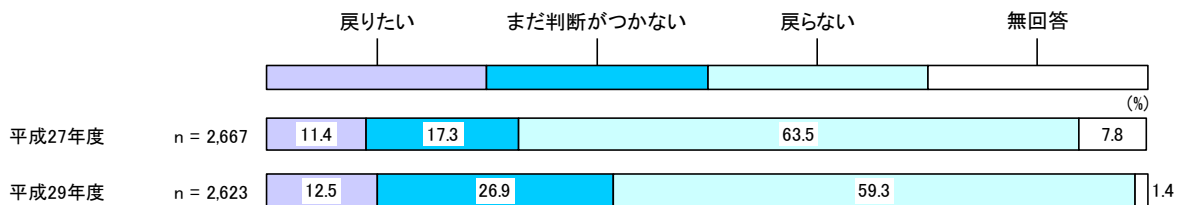
- ・「n」とは、質問に対する回答者数であり、100%が何世帯の回答に相当するかを示すものである。
- ・回答の構成比は百分率をあらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略している場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

帰還意向

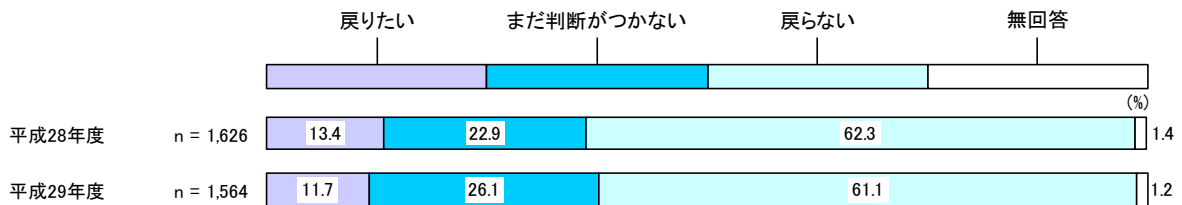
帰還意向

- 大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村では「まだ判断がつかない」と回答した方の割合が増加している。
- 平成29年度調査の結果によると、大熊町、双葉町、富岡町、浪江町では「戻らない」と回答した方の割合が5～6割となっている。

<大熊町>

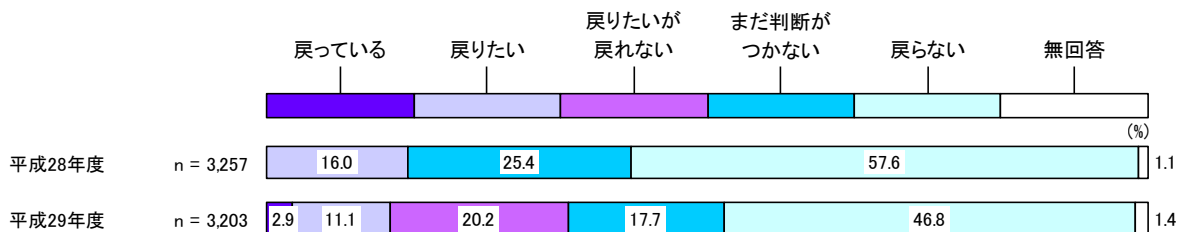


<双葉町>



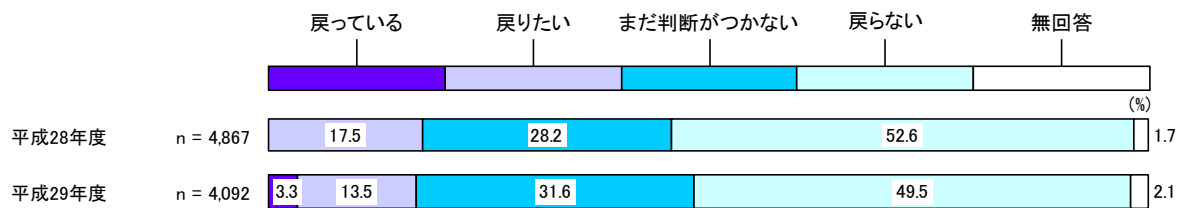
<富岡町>

※平成29年4月1日に避難指示の一部解除



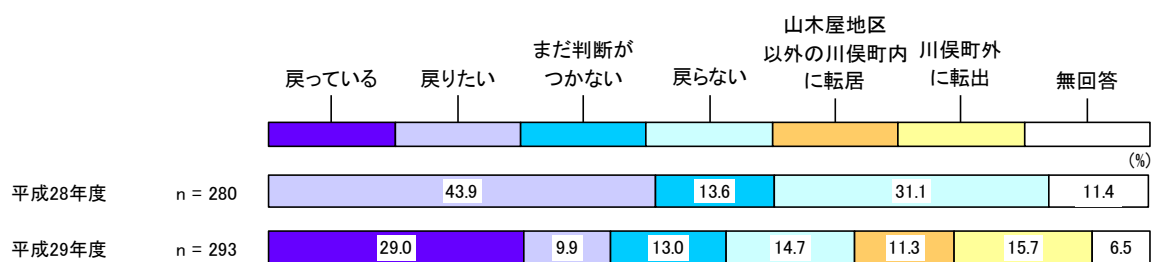
<浪江町>

※平成 29 年 3 月 31 日に避難指示の一部解除



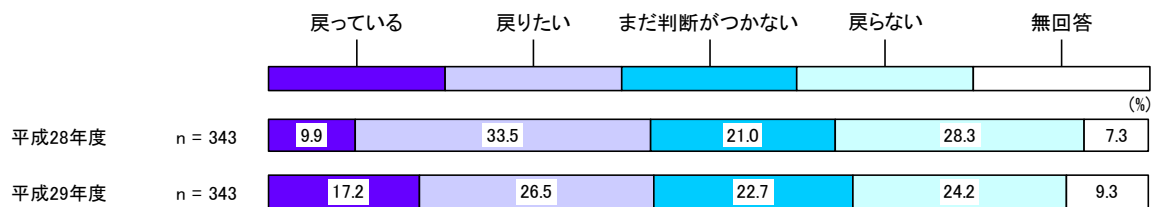
<川俣町>

※平成 29 年 3 月 31 日に避難指示解除



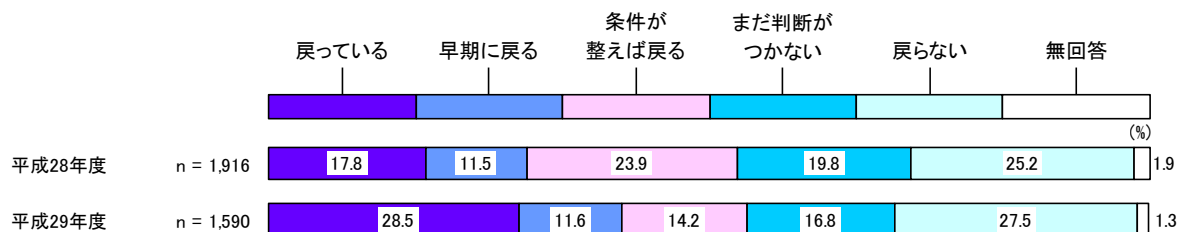
<葛尾村>

※平成 28 年 6 月 12 日に避難指示の一部解除



<楢葉町>

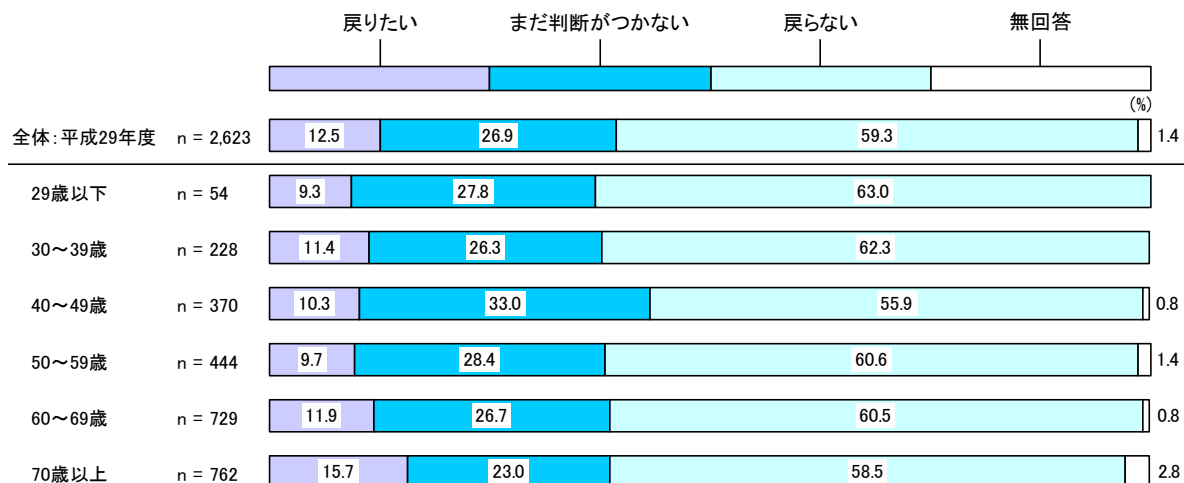
※平成 27 年 9 月 5 日に避難指示解除



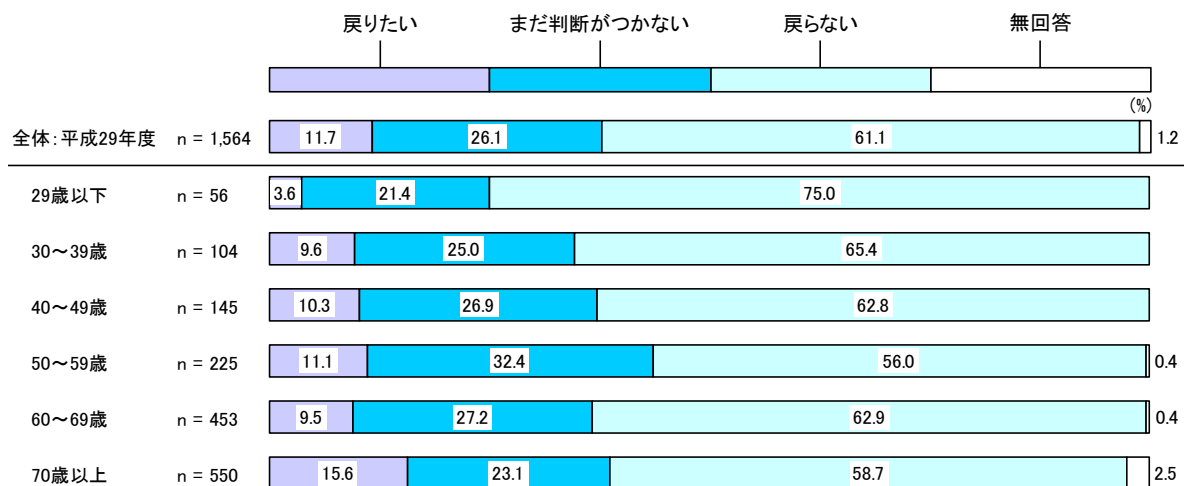
世代別帰還意向

○帰還の意向について、世代別にみると、概ね回答者の世代があがるにつれて「戻っている」及び「戻りたい」と回答した方の割合が高くなっている。

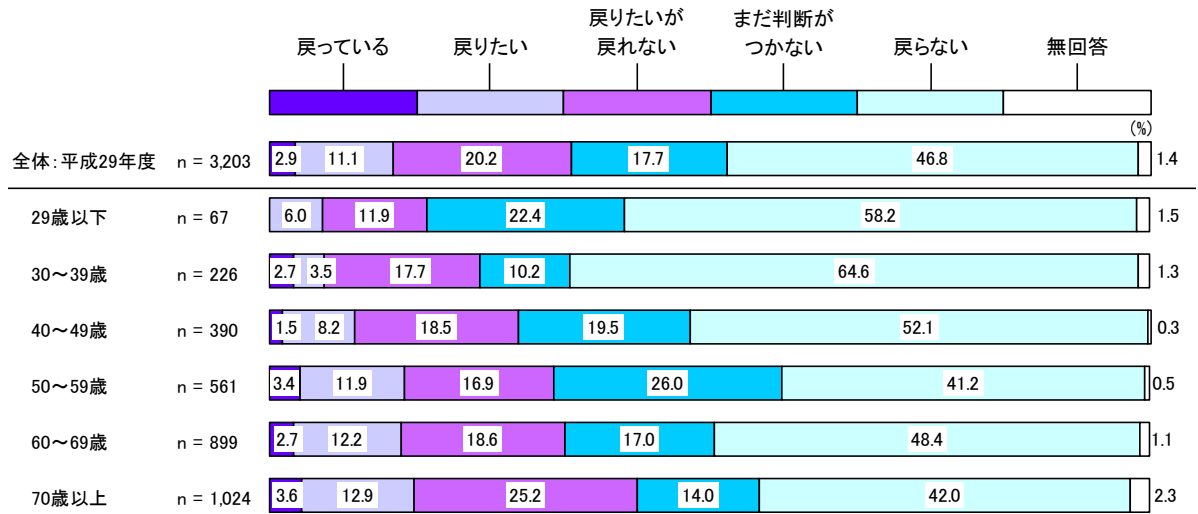
<大熊町>



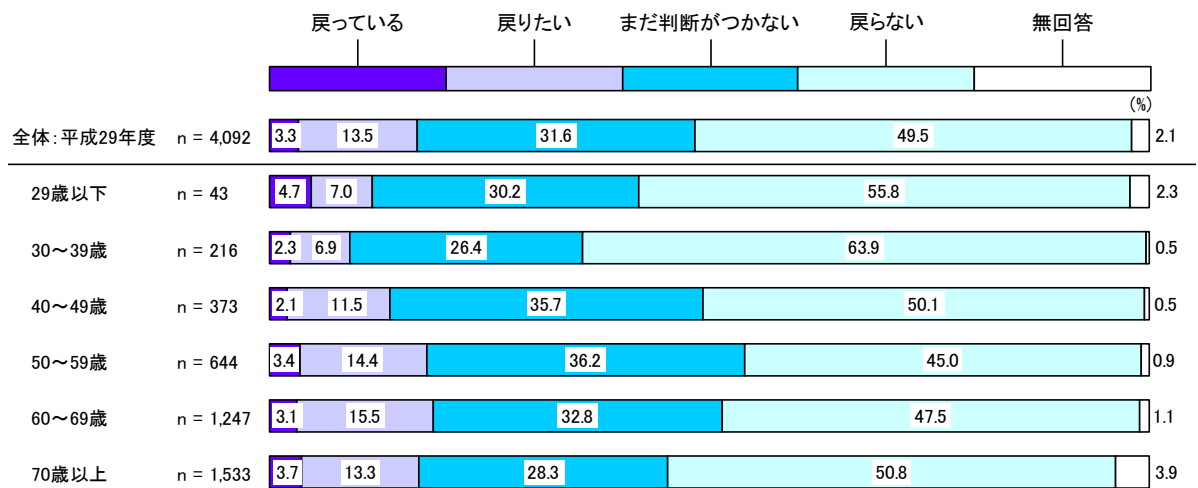
<双葉町>



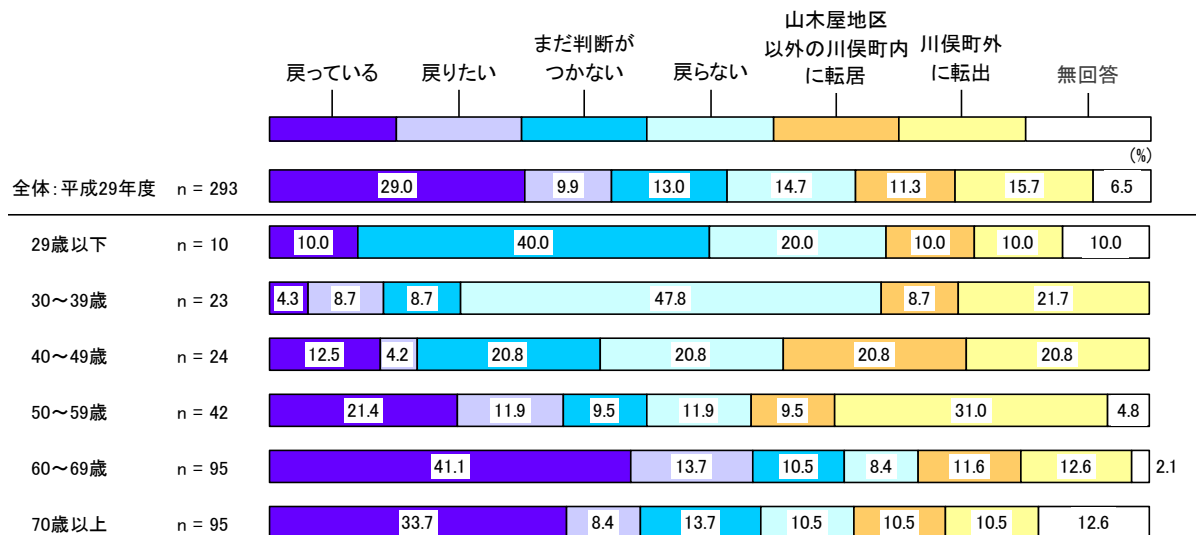
<富岡町>



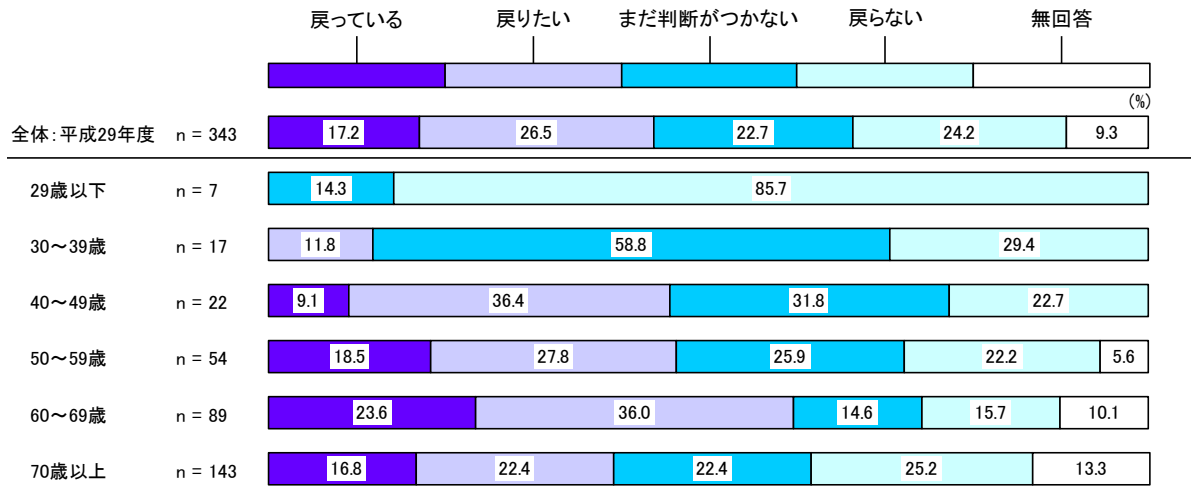
<浪江町>



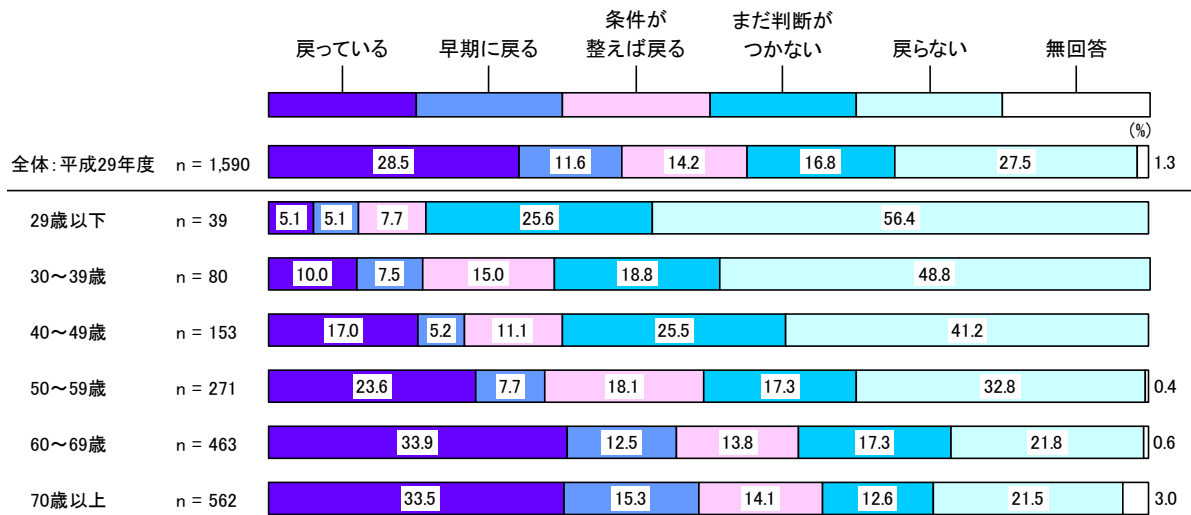
<川俣町>



<葛尾村>



<檜葉町>

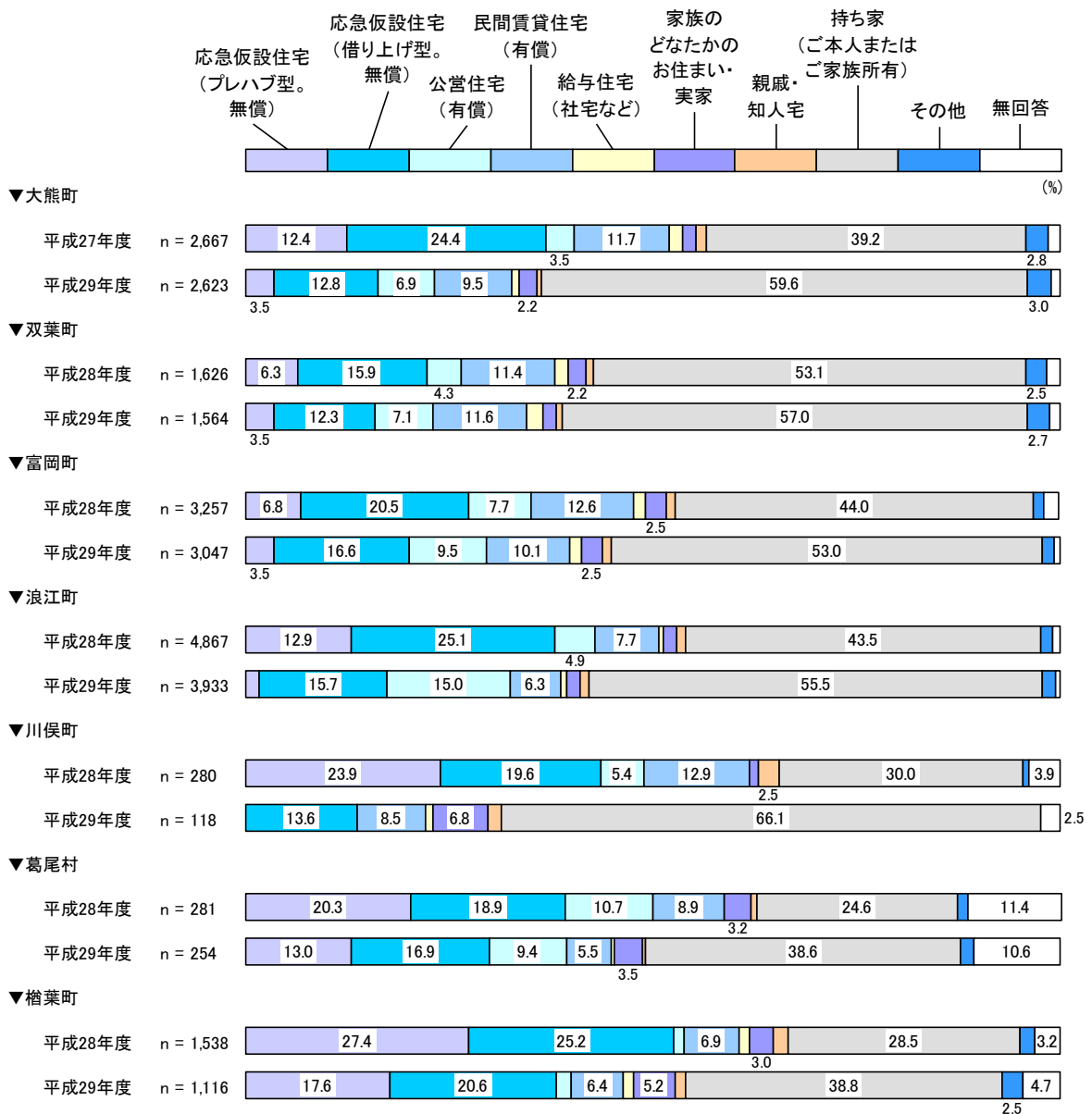


現在の住居形態

○元の自治体に戻っている方以外の現在の住居形態について、「応急仮設住宅（プレハブ型、借上げ型）」と回答している方の割合は減少し、大熊町、双葉町、富岡町、浪江町、川俣町で1～2割、葛尾村で3割、楡葉町で4割近くとなっている。

○また、「持ち家」と回答している方は増加しており、大熊町、双葉町、富岡町、浪江町、川俣町では概ね5～6割の方が「持ち家」を取得している。

※それぞれ、元の自治体に戻っている方以外の住居形態について整理している。



帰還を判断するために必要な条件

○帰還の意向において「まだ判断がつかない」と回答している方が「判断するために必要な条件」として、「医療・介護等の再開」が上位である町村が多く、その他「放射線量の低下、原発の廃炉の状況」「住民の帰還状況」「商業施設の再開」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
大熊町 平成29年度 n=705	道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 71.8%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 52.5%	住宅確保への支援に関する情報 50.4%	どの程度の住民が戻るかの状況 50.1%	避難指示解除となる時期の目安に関する情報 45.7%
双葉町 平成29年度 n=408	住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援 38.5%	医療・介護福祉施設の再開や新設 38.2%	商業施設の再開や新設 27.7%	除染対策(被ばく低減対策) 27.0%	賠償額の確定 10.8%
富岡町 平成29年度 n=566	道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の見通し 49.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 46.3%	放射線量の低下の見通し、除染成果の状況 42.0%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 35.3%	帰還困難区域内の復旧・復興計画 29.0%
浪江町 平成29年度 n=1,292	医療・介護の復旧時期の目途 60.9%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 51.5%	どの程度の住民が戻るかの状況 40.9%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 33.9%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 33.4%
川俣町 平成29年度 n=38	仮置場撤去の見通しに関する情報 39.5%	どの程度の住民が戻るかの状況 34.2%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 34.2%	道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 31.6%	中間貯蔵施設の情報 28.9%
葛尾村 平成29年度 n=78	どの程度の住民が戻るかの状況 39.7%	道路、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 38.5%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 37.2%	働く場の確保の目途 32.1%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 30.8%
楢葉町 平成29年度 n=267	医療施設の充実度 64.4%	原子力発電所の安全性(事故収束や廃炉の状況) 49.4%	商業施設の再開・充実の状況 46.4%	町内の治安の状況 43.4%	介護・福祉施設の充実度 38.6%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
大熊町 平成27年度 n=461	道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 70.9%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 53.6%	どの程度の住民が戻るかの状況 46.0%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 44.0%	住宅確保への支援に関する情報 41.4%
双葉町 平成28年度 n=373	住宅の修繕や建て替え、住宅確保への支援 41.3%	医療・介護福祉施設の再開や新設 39.4%	除染対策(被ばく低減対策) 30.3%	商業施設の再開や新設 19.0%	賠償額の確定 10.7%
富岡町 平成28年度 n=826	道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の見通し 58.6%	どの程度の住民が戻るかの状況 53.0%	放射線量の低下の見通し、除染成果の状況 48.4%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 41.6%	住宅確保への支援に関する情報 29.9%
浪江町 平成28年度 n=1,373	医療・介護の復旧時期の目途 62.2%	どの程度の住民が戻るかの状況 50.1%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 48.1%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 42.9%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 41.5%
川俣町 平成28年度 n=38	どの程度の住民が戻るかの状況 63.2%	仮置場撤去の見通しに関する情報 52.6%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 44.7%	放射線の人体への影響に関する情報 42.1%	道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 36.8%
葛尾村 平成28年度 n=72	道路、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 54.2%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 41.7%	どの程度の住民が戻るかの状況 38.9%	働く場の確保の目途 36.1%	放射線の人体への影響に関する情報 22.2%
楢葉町 平成28年度 n=379	医療施設の充実度 60.9%	原子力発電所の安全性(事故収束や廃炉の状況) 56.2%	町内の治安の状況 52.8%	商業施設の再開・充実の状況 44.9%	水道水等、生活用水への対策 44.6%

戻らない理由

○帰還の意向において「戻らない」と回答している方が「戻らない理由」として、「生活基盤ができていない」「医療・介護環境への不安」が上位である町村が多く、その他「放射線量の低下、原発の廃炉の状況への不安」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
大熊町 平成29年度 n=1,555	すでに生活基盤が できているから 36.1%	家が汚損・劣化し、 住める状況ではないから 26.7%	原子力発電所の 安全性に不安があるから 24.1%	放射線量が 低下せず不安だから 20.6%	中間貯蔵施設の 計画があるから 20.1%
双葉町 平成29年度 n=955	避難先で自宅を購入または 建築し、将来も継続的に 居住する予定だから 54.6%	家が汚損・劣化し、 住める状況にないから 52.3%	医療環境に 不安があるから 50.3%	生活に必要な 商業施設などが元 に戻りそうにないから 45.2%	水道水などの 生活水の安全性に 不安があるから 43.8%
富岡町 平成29年度 n=1,498	すでに生活基盤が できているから 56.3%	医療環境に 不安があるから 44.6%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 41.7%	原子力発電所の 安全性に不安があるから 41.5%	水道水などの 生活水の安全性に 不安があるから 35.8%
浪江町 平成29年度 n=2,025	医療環境に 不安があるから 42.6%	原子力発電所の 安全性に不安があるから 38.1%	生活に必要な 商業施設などが元 に戻りそうにないから 37.6%	避難先の方が 生活利便性が高いから 34.7%	水道水などの 生活水の安全性に 不安があるから 34.3%
川俣町 平成29年度 n=43	避難先の方が 生活利便性が高いから 48.8%	医療環境に不安があるから 44.2%	山木屋地区外への 移動が不便だから 37.2%	放射線量が 低下せず不安だから 30.2%	原子力発電所の 安全性に不安があるから 30.2%
葛尾村 平成29年度 n=83	避難先に 住居を構えたから 49.4%	避難先の方が 生活利便性が高いから 45.8%	医療環境に 不安があるから 42.2%	高齢者・要介護者の いる世帯なので 生活が不安だから 38.6%	葛尾村外への 移動交通が不便だから 26.5%
楢葉町 平成29年度 n=438	医療施設が 十分でないから 42.0%	原子力発電所の 安全性に不安が 残っているから 37.2%	商業施設の再開が 十分でないから 29.0%	自宅周辺に 住む人が少ないから 28.8%	水道水等の 生活水の安全性に 不安があるから 27.2%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
大熊町 平成27年度 n=1,694	医療環境に不安があるから 58.5%	家が汚損・劣化し、 住める状況ではないから 56.3%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうにないから 54.7%	水道水などの生活水の 安全性に不安があるから 53.8%	中間貯蔵施設の 計画があるから 53.6%
双葉町 平成28年度 n=1,013	家が汚損・劣化し、 住める状況にないから 56.1%	避難先で自宅を購入または 建築し、将来も継続的に 居住する予定だから 55.6%	医療環境に 不安があるから 53.0%	水道水などの 生活水の安全性に 不安があるから 48.9%	生活に必要な 商業施設などが元 に戻りそうにないから 47.3%
富岡町 平成28年度 n=1,875	医療環境に不安があるから 55.6%	すでに生活基盤が できているから 50.1%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 48.4%	家が汚損・劣化し、住める 状況ではないから 47.8%	避難先の方が生活利便性が 高いから 43.3%
浪江町 平成28年度 n=2,559	原子力発電所の安全性に 不安があるから 51.5%	医療環境に不安があるから 46.6%	水道水などの生活水の 安全性に不安があるから 46.5%	放射線量が低下せず不安 だから 42.6%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうにないから 39.9%
川俣町 平成28年度 n=87	避難先の方が生活利便性が 高いから 60.9%	医療環境に不安があるから 48.3%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうにないから 37.9%	山木屋地区外への移動が 不便だから 36.8%	高齢者・要介護者のいる 世帯なので生活が不安だから 33.3%
葛尾村 平成28年度 n=97	医療環境に不安があるから 41.2%	避難先の方が生活利便性が 高いから 40.2%	高齢者・要介護者のいる 世帯なので生活が不安だから 34.0%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 28.9%	葛尾村外への移動交通が 不便だから 27.8%
楢葉町 平成28年度 n=482	医療施設が十分でないから 43.6%	原子力発電所の安全性に 不安が残っているから 43.6%	自宅周辺に住む人が 少ないから 33.8%	水道水等の生活水の 安全性に不安があるから 32.4%	商業施設の再開が 十分でないから 31.7%